

中間貯蔵施設に関する専門家会議 委員意見

【開催日】令和6年5月9日（※書面開催）

【議 題】土壌貯蔵施設における沈下・変位量計測の見直しについて

専門分野	委員氏名	所属・役職	意 見
放射性物質	井 上 正	(一財)電力中央研究所 名誉研究アドバイザー	大きな形状の変化がなく、環境省の見直し案で問題はないと思われる。
廃 棄 物	小野 雄策	元 日本工業大学 教授	全ての工区（区画）で±5mm以内であることから、計測頻度を1回/月から1回/3か月に見直すことに同意する。
減 容 化	吉岡 敏明	東北大学大学院 教授	施設管理の推移と照らし合わせて、妥当な対応と判断できる。
地質・地下水	川越 清樹	福島大学 教授	大熊①工区、双葉①工区東、双葉②工区に関して、継続観測の結果を基に月1回から3月に1回に変更することは了解。変更してもよいと思う。
水 質	佐藤 洋一	元 日本大学 専任講師	一般論的な視点からも、見直し内容については理解できると考えるが、以下の2点について十分に確認の上で、長期的運用を判断することが肝要と考える。 1 3ヶ月後の予測値の確認（トレンド予測と実状況の整合） 2 突発的事象（例えば、豪雨・地震等）発生時の状況
交通計画	吉 田 樹	福島大学 教授 兼 前橋工科大学 特任教授	(意見なし)
騒音・振動	渡辺 敏夫	福島工業高等専門学校 名誉教授	(意見なし)
大気質・悪臭	樋口 良之	福島大学 教授	・全都清の関連の管理要領などに基づき、適当であると判断される。 ・安定しない状況となった場合に、モニタリング頻度を元に戻すことが明記されており、安心できる。
生 態 学	木村 勝彦	福島大学 特任教授	(意見なし)